

4 市各部署の取り組み

戦略基本目標 1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

4-1 里地里山の持続的な利用～小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクトの推進支援～

小倉南区役所 総務企画課
環境局 環境監視課

目的・趣旨

小倉南区には、数多くの農村地域(里地・里山)があるが、若者の流出や高齢化などにより、地区の活力が低下し、農地や山林が荒れ「日本のふるさと」とも言える美しい農村風景が失われようとしている。

一方、都市住民の中には、自然環境のなかでの生活やスローライフを希望するなど、心の豊かさを求める場所として、農山村地域を見直す動きがある。そこで、都市と農村の交流の中から里地里山をはじめとした農山村地域の豊かな自然や文化の保全を目指すもので、具体的には、平成16年9月より中谷地区を対象に、地区住民と小倉南区役所が協働して、都市住民も交えたワークショップを始めた。

内容

ワークショップの開催を通じて、地区における、まちづくり資源の発掘や再認識をし、それらを活かした目指すべき暮らしのイメージを共有し、都市住民との関わりを含めた、中谷地区まちづくり構想を、平成18年春に策定した。

構想に基づき、地区住民と小倉南区役所・環境局が協働して様々な取り組みを行っている。

中谷地区での主な取り組み

中谷ウォーキング in みなみ

中谷地区を実際に歩くことで、その魅力を体験してもらうとともに都市住民との交流を図っている。



今後の展開

- ・引き続き都市と農村の交流を図るため、エコツアー等で地元とのふれあい事業を実施。
- ・エコツアー参加者に対し、地元で行われる他の事業の開催案内や情報提供を図り、多くの人の参加を促す。

4-2 長野緑地「市民参加による農業体験教室」

建設局 公園管理課

実施内容

概要 長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、交流体験公園」を目指している。当事業では平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、地元住民が主体となり市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行っている。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山としての農村景観の維持を図る。

成果 買収済用地の維持管理経費の削減がなされるとともに、令和2年度は延べ711人の市民が参加している。※長野緑地整備完了後も同趣旨の事業の継続を検討しており、最終目標年度は未定。

今後の展開

「学習用田圃」及び公園計画地内の買収済用地の一部(計約0.8ha)及びその周辺において前年度に引き続き下記の活動を行う。

- ①野菜づくり教室
- ②農業体験(畑)
- ③農業体験(水田)
- ④花畑づくり・花壇づくり



4.3 学習プログラムの取り組み

建設局 公園管理課

実施内容

概要

本事業では、テレビや本、インターネットなどの「メディアから得た知識」ではなく、児童自身の「生きものとの出会いや触れ合いによる体験活動」を通して、生命の大切さや自分を取りまく環境について考え、理解を深めることを目的とし、「到津の森公園」が、市内及び市外の小学生や一般来園者に学習プログラムを提供している。

成果

平成17年度に事業開始以来、学校関係者及び参加児童からも大変好評を得ている。本プログラムは指定管理業務の一部として実施し、令和2年度は、40校3,307人が参加した。

今後の展開

引き続きプログラムを提供する。



4.4 中山間地域農業支援事業

産業経済局 農林課

実施内容

概要

中山間地域にある農地を保全し、良好な農村空間を維持するため、中山間地域の集落内での話し合いを基礎に定められた集落協定に基づき、農地を管理する集落（農業者）に対して交付金を支払う。

成果

水田等農地の自然環境や豊かな景観の維持、水質浄化、洪水防止、水資源のかん養など多方面にわたる環境保全の役割に着目し、優良農地の確保、農村原風景の保全に努めるとともに、次世代への継承を図った。

課題

中山間地域では、過疎化、高齢化が進み、農地の維持が困難になっている。今後、この傾向は加速すると考えられ、農村環境だけでなく農村そのものの存続が危惧される。



今後の展開

水田等農地の自然環境や豊かな景観の維持、水質浄化、洪水防止、水資源のかん養など多方面にわたる環境保全に取り組む。

◎対象農地:54.8ha

4-5 地産地消の推進

産業経済局 農林水産部

実施内容

概要

消費者の「食」に対する関心が高まる中、「新鮮」で「安全・安心」な農林水産物を求める声広がっている。そこで、生産者、消費者、飲食店、販売店、加工・製造者等が参加する地産地消サポーターへの情報発信や食のイベント等を通じ地産地消を推進し地元産の食を通じた地域の活性化を目指すもの。

成果

地産地消を推進することによって、食に関わる人々の顔が見える関係づくりを進めることができた。また、イベント等を通じ多くの人に北九州産の農林水産物を知ってもらい、地産地消を働きかけることができた。

課題

消費者に対する北九州産の農林水産物の認知度向上。ブランド化の推進。

今後の展開

産地見学会等の活動による農林水産業への理解促進、サポーター同士の相互交流や連携を進めるとともに、ブランド製品のPRを図り、地産地消をいっそう推進していく。



豊前海一粒かきのかき焼き祭り



北九州市農林水産まつり

※令和3年は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

4-6 多面的機能支援事業(旧:農地・水保全管理事業)

産業経済局 農林課

実施内容

概要

農村地域における都市化や混住化の進行、また高齢化等に伴う集落機能の低下のほか、環境・景観等に対する市民意識の高まりを受け、地域が主体となって取り組む農地・農業用施設を守る共同活動に対して支援を行う。

成果

この施策では、高齢化や混住化の進行により弱まってしまった地域の『力』を、農業者と都市住民とが一体となって育成し、景観や環境に対する意識の高まりも加味しながら、共通の資源である農業の持つ多面的機能を守っている。

課題

農業の持つ多面的機能を守っていくためには、農業者だけでなく地域住民や企業、NPO等の多様な主体も参加し、共同活動を進めていくことが重要である。

今後の展開

多面的機能支援事業の取り組みを受け、自主的かつ自立した地域の活動が継続するよう、活動組織の安定的な枠組みを構築していく。



戦略基本目標 2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

4.7 環境学習事業の推進 環境局 環境学習課

実施内容

概要 環境学習の総合拠点である環境ミュージアムにおいて、ガイドの解説や環境学習サポーターによるエコ工作・環境実験など、様々なプログラムを実施。また、環境学習コンシェルジュや、環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した様々な媒体での情報発信等を行っている。さらに、多様な人々が、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域課題等に取り組むESD活動の全市民的な普及を目指すとともに、エコライフステージや環境首都検定をはじめとする施策を実施する。



環境ミュージアム 企画展



環境マスコットキャラクター「ていたん」

成果

- ・環境ミュージアムにおける環境学習の推進。
- ・環境学習コンシェルジュを中心とした様々な媒体での情報発信。
- ・北九州市環境首都検定の実施。
- ・環境教育副読本や環境教育ワークブック「みどりのノート」を作成・配布。
- ・北九州ESD協議会を中心とした、ESDの普及・促進。
- ・北九州エコライフステージの実施。
- ・環境マスコットキャラクター「ていたん」を活用した環境施策の広報。



エコライフステージ



環境首都検定

今後の展開

引き続き、環境学習の総合拠点である環境ミュージアムを中心として、市民に対し、効果的な学びの場を提供するとともに、ESDの普及や環境首都検定をはじめとする施策を実施する。

4.8 自然環境に精通した人材の育成 ～北九州市自然環境サポーターの取り組み～ 環境局 環境監視課

目的・趣旨

「第2次北九州市生物多様性戦略」の基本目標「地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成」を具体化していく施策として、自然環境に関心のある市民等を対象に自然に対する正しい知識や上手なつきあい方をテーマにした講義や実習（フィールドワーク）を行い、自然環境分野の人材（北九州市自然環境サポーター）育成を図っていく。この取り組みの一つが「北九州市自然環境サポーター養成講座」である。

内容

これまで、平成17年度～平成21年度（5年間）にかけて、講義や実習を実施し、195名が「北九州市自然環境サポーター」として認定された。こうして育成された「自然環境サポーター」は、里地里山での植樹活動、希少種の保全活動、自然観察講座の運営補助など幅広い活動を行った。また「響灘ビオトープボランティア」として33名活動中。

成果

- ・北九州市自然環境サポーターの方々のいろいろな活動に参加するきっかけづくり。
- ・北九州市自然環境サポーターによる各種保全活動の実践や、「第2次北九州市生物多様性戦略」を推進する母体「北九州市自然環境保全ネットワークの会」や既存NPO・団体の自然環境保全活動への参加などによる、活動の裾野の広がり。「響灘ビオトープ」の運営・管理をサポートする「市民力」の基礎ができた。



ビオトープ園内で活動する響灘ビオトープボランティア

今後の展開

・自然環境保全活動へのさらに多くのサポーターの参加の促進。

4-9 ほたるのふるさとづくり 建設局 水環境課

実施内容

概要

人もホタルもすみよい快適環境の実現と、ホタルをとした地域コミュニティの活性化を目的に「ほたるのふるさとづくり」を展開しています。

(1) ほたるアドバイザー

ホタルの保護育成を行っている団体にアドバイザーの派遣・紹介等を行い、ホタルの飼育や水辺環境等の問題について現地指導を行います。

(2) ホタル飛翔調査

毎年6月に市民、地域のホタル愛護団体などの協力のもと、市内各地の河川で飛翔調査を行っています。調査結果はほたるマップとしてまとめ、市民や観光・宿泊施設に配布しています。

(3) ほたと水辺の環境学習会

地域において水辺環境の保全活動で活躍できる人材を育成するため、ホタルや水辺環境についての学習会を開催します。



ほたるアドバイザー



ほたと水辺の環境学習会

成果

(1) ほたるアドバイザー

要望があった1団体にアドバイザーを派遣しました。

(2) ホタル飛翔調査

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民の公募は中止し、調査しました。

(3) ほたと水辺の環境学習会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止しました。

今後の展開

- ・ホタルを通じた河川生態系の保護保全活動をホタル愛護団体や地域の皆さまと協力しながら進めていきます。

戦略基本目標 3 自然環境の適切な保全による、森・里・川・海などがもつ多様な機能の発揮

4-10 荒廃森林再生事業 産業経済局 農林課

実施内容

概要

木材価格の低迷や森林所有者の高齢化などにより、森林の手入れが行われずに荒廃が進み、洪水や濁水、土砂災害が起こる危険性が高まり、生活環境に重大な影響を及ぼすことが懸念される。

福岡県森林環境税を活用して概ね10年以上手入れされていない個人・会社の森林整備（スギ林やヒノキ林の間伐や侵入した竹の除去）を実施し、水源のかん養・山地災害の防止など森林が有する公益的機能の持続的な発揮を図る。

課題

森林所有者の不在や森林の境界の不明瞭などにより森林整備の同意が得られない場合がある。

今後の展開

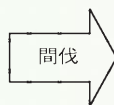
引き続き、森林整備を実施する。

成果

第1期の森林整備面積：1124ヘクタール
令和2年度の森林整備面積：63.0ヘクタール



間伐前
(暗く下草がない森林)



間伐後
(明るく下草が豊かな森林)

4-11 竹等粉碎機貸出事業 産業経済局 農林課

実施内容

概要 放置竹林の拡大による生物多様性、水源かん養機能の低下など環境や景観への影響が懸念されている。竹や樹木の粉碎処理を希望する市民やNPO法人に小型の竹粉碎機を無料で貸し出し放置竹林の拡大の抑制及び森林・里山保全を図る。

成果 令和2年度貸出件数：17件
市内の放置竹林の解消や里山の保全、環境、景観の改善が図られている。

課題 貸出しによる放置竹林の解消を上回る拡大が続いており、問題の抜本的な解決には結びついていない。

今後の展開

引き続き貸し出し事業を継続し、市民やNPO法人が取り組む放置竹林対策を支援する。



4-12 流域ネットワーク推進事業 紫川流域会議 建設局 水環境課

実施内容

概要 紫川流域で「河川愛護活動」や「まちづくり」、「青少年の健全育成」等に取り組んでいる各団体間の交流を深め、相互に連携することで、河川愛護活動のより一層の充実を図ることを目的としている。

また、各団体のネットワークを生かしたイベント開催など、紫川の賑わいを創出し市民主体のまちづくり活動を促すことも目的としており、今後さらに、流域内にある河川愛護団体や地元自治会、小学校及び行政が一体となり、市民のための環境学習や自然を生かした川づくりを進めることを目標としている。

組織

- ・ 地元自治会 …………… 23団体
- ・ 河川愛護団体・民間企業等 … 29団体
- ・ 小学校 …………… 19団体
- ・ 行政関係（北九州市・県） …… 12団体

成果

- 6月 …………… 役員会開催
- 7月～10月 …………… 紫川流域一斉清掃
- 3月 …………… 総会開催
- 3月 …………… 紫川流域会議通信発行



今後の展開

今後、各団体間の交流をさらに深め、相互に連携し、河川愛護活動のより一層の充実を図っていく。